

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 6月  
公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載します。  
公告掲載URL (<http://www.denka.co.jp/>)

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 (電話照会先) 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

上場証券取引所 東京証券取引所  
証券コード 4061

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 「配当金計算書」について  
配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年から配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。

## アンケートにご協力ください。

＜アンケート実施期間：2011年1月15日（土）まで＞

今後のIR活動の参考とさせていただくため、インターネットによるアンケート（15問程度）にご協力をお願いいたします。  
ご回答いただいた株主様の中から**抽選で150名様に、QUOカード（クオカード）500円分**を進呈いたします。  
※当選された方には、2011年2月末日までにQUOカードをお送りいたします。

### ご回答手順①

Yahoo!やGoogleなどの検索エンジンに「電気化学工業IR」と入力して『電気化学工業-IR情報』を探し、弊社ホームページへ訪れてください。

電気化学工業 IR 検索

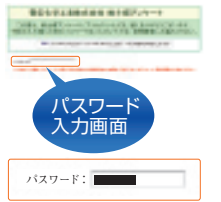
### ご回答手順②

IR情報ページ右上の「株主様アンケート」ボタンをクリックしてください。



### ご回答手順③

アンケート画面の入力枠にパスワード：  
■■■■■を入力して、回答画面にお進みください。



アンケートに関するお問い合わせ先

電気化学工業株式会社 総務部 TEL: 03-5290-5055 (代表)

電気化学工業株式会社  
<http://www.denka.co.jp/>



## 特集

### デンカの成長戦略③

成長分野における  
集中的な多製品展開

- 2 連結財務ハイライト
  - 3 ごあいさつ  
代表取締役社長 川端 世輝
  - 4 デンカのビジネスと成長戦略
  - 6 特集 デンカの成長戦略③  
成長分野における  
集中的な多製品展開
  - 8 News & Topics  
シンガポールに新プラントを建設  
韓国に現地法人を設立
  - 9 Face of DENKA その知られざる素顔  
Vol.3 石灰窒素による  
わが国の農業への貢献
  - 10 セグメント別概況
  - 12 連結財務諸表 (要旨)
  - 14 会社情報
  - 15 株式情報
- 巻末 株主様限定  
潤基礎化粧品シリーズ優待販売のご案内

# DENKA

電気化学工業株式会社

## 株主通信

第152期 中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日

News & Topics  
シンガポールに新プラントを建設  
韓国に現地法人を設立

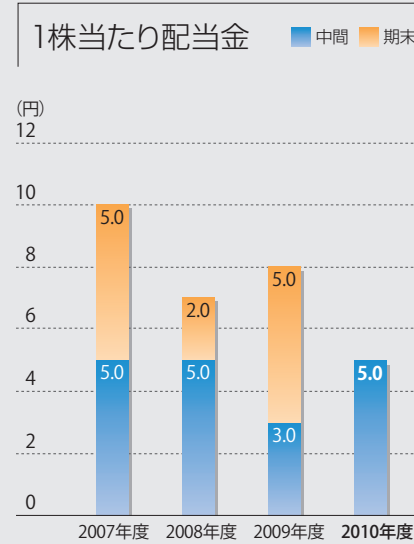
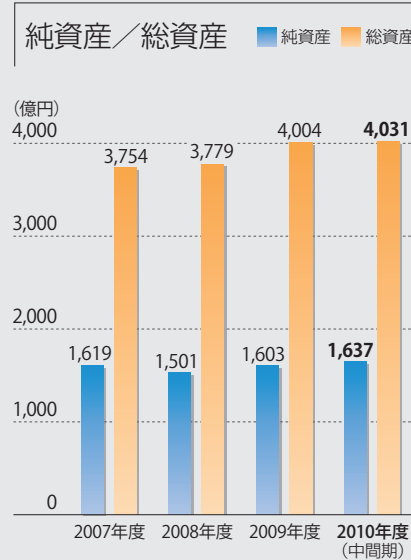
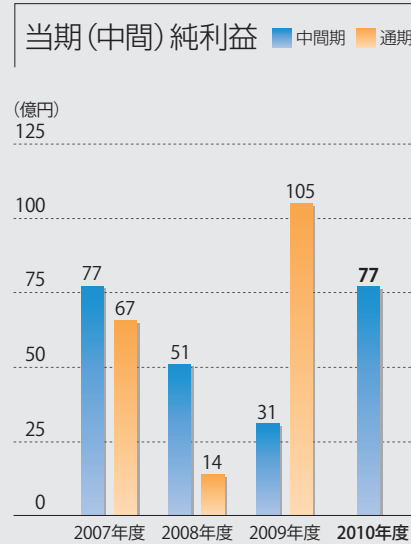
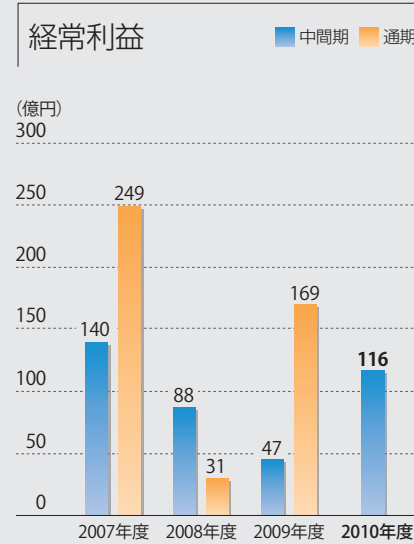
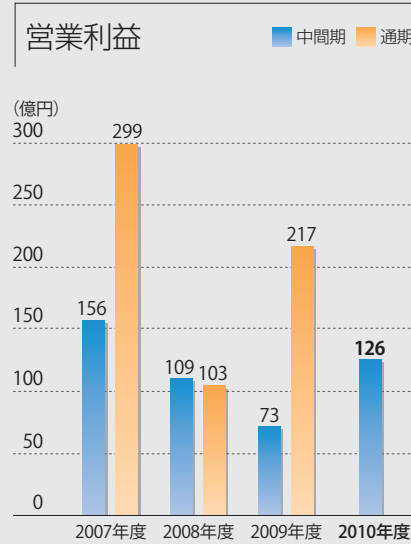
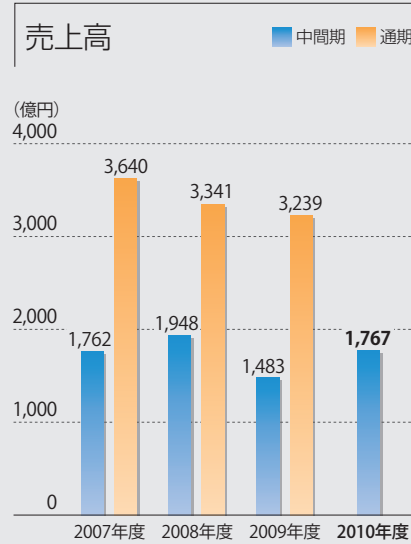
株主様限定  
潤基礎化粧品シリーズ  
優待販売のご案内

Face of DENKA  
その知られざる素顔

Vol.3 石灰窒素による  
わが国の農業への貢献

### 株主様アンケートの実施

当社では、今後のIR活動強化を  
目的としたインターネットによる  
アンケートを実施します。  
詳細は、裏表紙をご覧ください。



## 素材事業の強化と一層の国際化に取り組み 安定した高収益企業を目指してまいります

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。第152期(2010年度)第2四半期の当社概況をご報告するにあたり、ひとことごあいさつを申し上げます。

当社グループの当第2四半期の業績は、多くの製品で販売数量の回復が進み、前年同期比で大幅な増収増益となりました。利益の内訳では、昨年度下期と同様に電子材料事業が中心となっており、半期ベースで過去最高益を記録しております。

一方、素材事業につきましては、急激な円高の進行による影響もあり、本格的な収益の回復には至っておりません。しかしながら、クロロブレンゴムにおいてはアジア地域における旺盛な需要を背景に、既に増設前の製造能力を上回るペースでの出荷となっており、引き続き販売価格の是正を推し進め、数量と収益のバランスが取れた拡大を目指してまいります。また、スチレン系樹脂事業では体質改善が進み、シンガポールにおいて安定的に収益を確保することができる体制が整ってまいりました。今後は、特徴ある製品の品揃えをさらに強化し、素材事業の中核としての位置づけをより確かなものにしてまいりたいと考えております。

本年度後半の見通しにつきましては、長引く円高や原燃料価格の高騰、不透明な国際情勢、景気刺激策の縮減にともなう国内需要の減少、さらには昨年の新型インフルエンザ流行にともなう特需の消失など、予断はできない情勢であると考えております。しかしながら、これまで打ってきた国際展開への布石は着実に実を結び始めており、当社の持つユニークな製品を需要の旺盛な地域で確実に販売していくことで、収益の確保に努めてまいりますので、株主のみなさまには一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

川端世輝

2010年12月

# 高い技術力で「資源」から「価値あるモノ」を創造

総合化学メーカーとして、自社資源・資産を活かした多彩な基礎素材で安定収益を確保する一方で、成長市場の需要に応える付加価値の高い機能製品を開発・提供しています。



## 成長戦略 1 海外市場での販売拡大

海外売上高比率を2009年度の約24%から2015年までに50%以上に引き上げることを目指し、海外での販売拡大に取り組んでいます。国内市場が成熟するなかで、将来にわたって高い成長が期待される海外市場を重視し、さまざまな施策を実行しています。

**主要施策**

- アジアを中心とした拠点拡充 → P8 (News & Topics)
- 重点製品の営業活動強化  
・クロロプレンゴム ・電子材料

## 成長戦略 2 競争力ある製品の強化

「強いものをより強く」をキーワードに掲げ、高い市場競争力で収益を支えている事業や今後の成長を牽引する事業をさらに強化するために、積極的に投資を進めています。

**主要施策**

- 生産能力の増強  
・クロロプレンゴム  
・スベニール® (高分子ヒアルロン酸製剤)  
・電子材料 など

## 成長戦略 3 成長分野における集中的な多製品展開 → P6 (特集)

ぶどうの房 (クラスター) のように、成長分野において優位性のある技術を軸に、周辺分野への集中的な多製品展開を進めています。また、そのためのより質の高い研究開発を実現するため、研究開発拠点を再編するなど、機動的で柔軟な体制づくりを目指しています。

**主要施策**

- LED関連部材の展開  
・白色LED用蛍光体 ・放熱基板
- 太陽電池関連部材の展開  
・ソーラーロック® ・デンカDXフィルム®

※「スベニール」は、中外製薬株式会社の登録商標です。

# デンカの成長戦略③ 成長分野における集中的な多製品展開 電子材料のクラスター戦略で 成長市場を深耕

デンカでは、成長市場の需要に応える高付加価値製品を取り揃えることで、市場開拓を推進しています。今回の特集では、主要な製品紹介とマーケット最前線について報告します。

## デンカのクラスター戦略市場と製品群

### デンカの クラスター戦略

製品・部材から製造プロセスまで市場全般にわたるニーズを的確に吸い上げ、デンカが長年培ってきた多様な要素技術を集中的に活用することで、競争力のある製品を「房」のように揃えて展開する、それがデンカのクラスター戦略です。



## 成長市場にフォーカスして 豊富な製品ラインナップ

デンカは、2015年の創立100周年に向けた経営目標「DENKA100」達成のため、電子材料事業において「LED」「太陽光発電」「パワーモジュール」の3分野に狙いを定めた「クラスター戦略」を展開しています。急成長するこれらの市場では、常に新しい機能や新素材が求められており、デンカは窒化物系セラミックスや放熱部材などで集積した技術を結集し製品を開発、その例として白色LED向け蛍光体や太陽光発電用シリコン加工用仮止接着剤などの実用化が挙げられます。今後もさらなる技術開発と供給力拡充により、市場の開拓と牽引を目指します。

### クラスター戦略1 LED市場

#### 新製品の蛍光体を中心に周辺部材に積極展開

LEDはその優れた省エネルギー性や水銀フリーといった特長から、白熱電球や蛍光灯に替わる次世代の光源として急速に普及が進んでいます。デンカもLED市場を最重点分野として位置づけ、新製品である蛍光体を中心に放熱部材やチップの搬送資材などの製品群を投入し、これらが電子材料事業の柱として成長しています。

### クラスター戦略2 太陽光発電市場

#### プロセス部材から成膜用ガスまで多様な品揃え

太陽光発電は世界的な普及政策の後押しもあり、市場が急拡大しています。デンカは、パネルの耐久性を向上させるバックシート用の保護フィルムから、コンバーター用放熱部材、シリコン膜形成用素材のモノシランガスやシリコン加工用の仮止接着剤に至るまで多様な製品を開発し、高耐久性やコストダウンの要求に応える製品を供給しています。

### クラスター戦略3 パワーモジュール市場

#### 得意のセラミックスや放熱技術を駆使した部材で高シェアな製品群

モーター制御や電力変換等を行うパワーモジュールは、高速鉄道、ハイブリッド車や電気自動車等さまざまな用途に使用されます。デンカは放熱製品を中心に各種周辺素材を取り揃えており、なかでも主に鉄道車両向けに使用されるAlN基板（窒化アルミ基板）やベース・ボードのアルシंक®は高いシェアを誇っています。

## シンガポールに「デンカIP®」新プラントを建設

「デンカIP®」は、独自技術により開発したスチレン系樹脂で、主にABS樹脂に耐熱性を付与する添加材として使用されています。中国やインド、中東諸国などで、耐熱ABSの主用途である自動車や家電製品の需要が拡大していることから、2012年4月稼働を目標にシンガポールに新プラントを建設し、海外市場での販売拡大を目指します。

デンカはシンガポールにおいて、アセチレンブラックや熔融シリカ、各種スチレン系樹脂を製造し、世界各地に出荷していますが、今回のIPプラント新設により、さらなる海外事業の強化に取り組んでいきます。

耐熱性や熱安定性に優れている  
衝撃強度向上等に寄与



デンカIP®



実用例：自動車インナーパネル

## 韓国に現地法人を設立、商品開発・市場開拓を加速

デンカは、海外売上高比率を2009年度の約24%から2015年までに50%以上に引き上げることを目標に、アジアを中心とした海外拠点の拡充に取り組んでおり、2010年10月、韓国・ソウル市に現地法人「電気化学工業韓国株式会社」を設立しました。

デンカでは、家電、自動車、電子部品などの分野でグローバルに事業を展開する韓国企業に対し、長年にわたり合成樹脂、合成ゴム、電子材料などの製品を販売していますが、今後、これらの企業へのより密接なフォローを通じて、商品開発と市場開拓を加速していきます。



# Face of DENKA

## その知られざる素顔

## Vol. 3 石灰窒素によるわが国の農業への貢献

デンカは、高い技術力でさまざまな製品をつくり、産業や暮らしに広く貢献しています。このコーナーではデンカの特徴的な事業を紹介しています。今回は、創業以来、わが国の農業の発展に貢献し、現在でもその製造技術がデンカのさまざまな製品に応用されている「石灰窒素」を取り上げます。



### 誕生から100年。わが国の農業とともに

石灰窒素は、100年の歴史を持ち、肥料・土づくり・農業という3つの機能を併せ持つユニークな農業資材です。現在では、石灰窒素は、残留性がない農業として、また土壌にやさしい肥料として注目されています。

デンカは、石灰窒素の製造を目的に、1915年に設立されました。その後、大正末期から昭和初期にかけて、石灰窒素は他の窒素系肥料に比べ割安になっていたことや、農業としての効能が評価され、本格的な普及が進みました。また、石灰窒素は戦後の復興期においても食糧増産に重要な役割を果たしました。

現在も、デンカは石灰窒素の安定供給により、わが国の農業を支えています。

### デンカの製品開発のルーツ

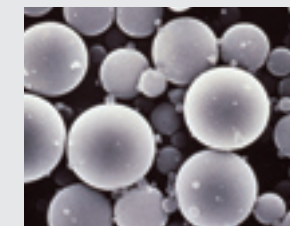
デンカは、長年にわたる石灰窒素およびそのベースとして使用されるカーバイドの製造技術を応用し、さまざまな製品の開発を実現してきました。例えば、カーバイド製造のため、電気炉を用いて原料を高温で熔融する際に培ってきた技術は、世界トップシェアを誇る熔融シリカの製造に活用されています。また、最近では、石灰窒素製造における窒化技術が、成長分野である白色LED用蛍光体の製造につながっています。

このように、石灰窒素およびカーバイド製造の技術は、幅広い分野で応用され、デンカの特徴ある製品の開発に活かされています。

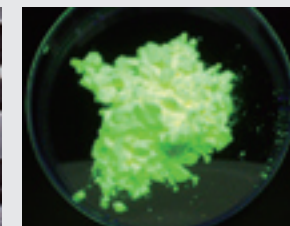
### 石灰窒素の3つの機能



### 製品展開例



半導体封止材向け  
熔融シリカファイラー

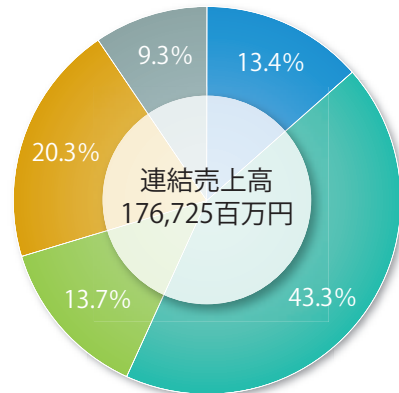


液晶テレビのバックライト向け  
白色LED用蛍光体

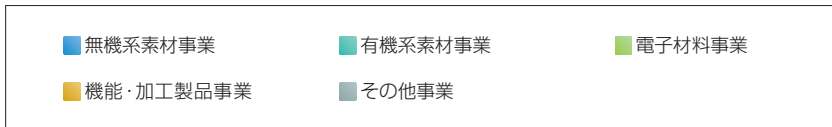
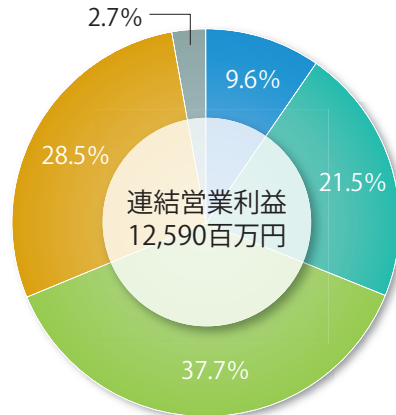
# セグメント別概況

デンカの事業セグメントは、製品の種類・性質を考慮して4つの事業（無機系素材、有機系素材、電子材料、機能・加工製品）とその他の事業（商社等）に分かれています。当第2四半期の業績は、有機系素材や電子材料を中心に多くの製品で販売数量が回復したことや、販売価格の是正が進んだことなどにより、大幅な増益となりました。

セグメント別連結売上高の割合



セグメント別連結営業利益の割合

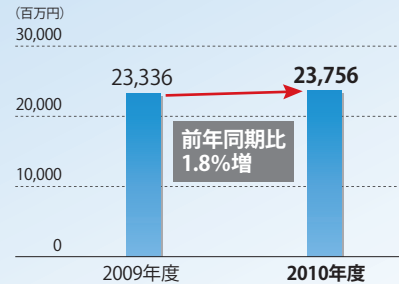


## 無機系素材事業



- 肥料
- 無機化学品
- セメント
- 特殊混和材

第2四半期(累計)売上高推移



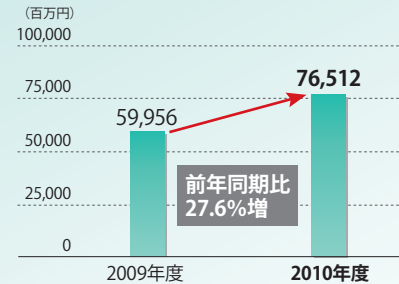
耐火物、鉄鋼用材料は需要の回復により、増収となりました。また、特殊混和材もトンネル工用急結剤「ナトミック®」の販売数量が増加するなど、増収となりました。一方で、セメントは公共投資や民需の低迷が続いており、販売数量が減少し減収となりました。

## 有機系素材事業



- 樹脂原料
- 合成樹脂
- 酢酸系加工品
- 合成ゴム など

第2四半期(累計)売上高推移



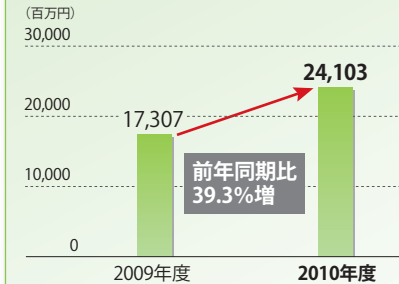
主力製品であるクロロブレンゴムは、中国・アジア向けを中心に販売を伸ばしました。また、スチレンモノマーやABS樹脂、透明樹脂の販売数量が増加したほか、シンガポールの子会社デンカシンガポール社のポリスチレン樹脂等の販売も順調に推移しました。

## 電子材料事業



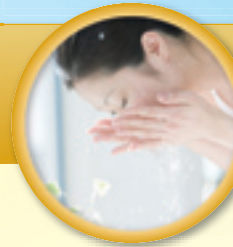
- 電子部材
- 電子梱包材
- 機能性セラミックス
- 接着剤

第2四半期(累計)売上高推移



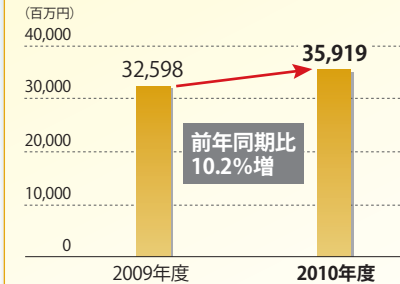
電子回路基板は、電鉄向け、産業機器向けとも順調に売り上げ、半導体封止材向け溶融シリカフィラーや電子部品搬送用資材、産業用接着剤「ハードロック®」も、新興国の市場拡大などにより販売数量が増加し、増収となりました。また、2009年度下期に販売を開始した白色LED用蛍光体「アロンプライド®」の販売も順調に拡大しました。

## 機能・加工製品事業



- 食品梱包材
- 建築資材
- 産業資材
- 医療関連

第2四半期(累計)売上高推移



かつら用合成繊維「トヨカロン®」は、アフリカ諸国向け輸出が好調で、増収となりました。また、太陽電池のバックシートなどに使用される「デンカDXフィルム®」も販売数量が増加しました。医薬では、関節機能改善剤（高分子ヒアルロン酸製剤）の販売数量は増加しましたが、デンカ生研（株）のインフルエンザワクチンや検査試薬は平年度並みとなりました。

# 連結財務諸表(要旨)

四半期連結貸借対照表

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (2010.9.30)	前連結 会計年度末 (2010.3.31)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>144,388</b>	<b>138,360</b>
現金・預金	5,376	6,856
<b>② 受取手形・売掛金</b>	<b>78,106</b>	<b>74,843</b>
たな卸資産	47,849	44,413
その他	13,895	13,017
貸倒引当金	△ 838	△ 770
<b>固定資産</b>	<b>258,708</b>	<b>262,046</b>
<b>① 有形固定資産</b>	<b>203,847</b>	<b>207,005</b>
無形固定資産	2,788	3,476
投資有価証券	37,714	39,492
その他	14,489	12,383
貸倒引当金	△ 132	△ 310
<b>資産合計</b>	<b>403,096</b>	<b>400,407</b>

## 財務諸表のポイント

### Point ① 有形固定資産

有形固定資産は、クロロプレンゴムや高分子ヒアルロン酸製剤の増産工事など、大型設備投資が前年度末までに一巡したことから、前年度末に比べ31億58百万円減少して2,038億47百万円となりました。

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (2010.9.30)	前連結 会計年度末 (2010.3.31)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>154,023</b>	<b>150,689</b>
<b>② 支払手形・買掛金</b>	<b>48,399</b>	<b>45,499</b>
短期借入金	49,136	48,709
コマーシャルペーパー	16,000	9,000
1年以内償還社債	—	—
その他	40,487	47,480
<b>固定負債</b>	<b>85,387</b>	<b>89,401</b>
社債	25,000	25,000
長期借入金	33,195	37,866
その他	27,191	26,534
<b>負債合計</b>	<b>239,410</b>	<b>240,091</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>152,455</b>	<b>147,190</b>
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,304	49,303
利益剰余金	69,821	64,550
自己株式	△ 3,668	△ 3,662
評価・換算差額等	<b>8,790</b>	<b>10,634</b>
少数株主持分	<b>2,440</b>	<b>2,491</b>
<b>純資産合計</b>	<b>163,686</b>	<b>160,316</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>403,096</b>	<b>400,407</b>

### Point ② 受取手形・売掛金/支払手形・買掛金

需要回復にともない売上債権や仕入債務が増加したことなどから、受取手形・売掛金は前年度末に比べ32億62百万円増加して781億6百万円となり、支払手形・買掛金は29億円増加して483億99百万円となりました。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (2010.4.1~2010.9.30)	前第2四半期 連結累計期間 (2009.4.1~2009.9.30)
<b>売上高</b>	<b>176,725</b>	<b>148,345</b>
売上原価	138,009	116,119
販売費・一般管理費	26,125	24,965
<b>営業利益</b>	<b>12,590</b>	<b>7,261</b>
営業外収益	1,957	593
営業外費用	2,935	3,175
<b>経常利益</b>	<b>11,613</b>	<b>4,679</b>
特別利益	—	—
特別損失	553	—
<b>⑤ 税金等調整前四半期純利益</b>	<b>11,059</b>	<b>4,679</b>
法人税、住民税及び事業税	3,298	1,682
少数株主利益	34	△ 94
<b>四半期純利益</b>	<b>7,726</b>	<b>3,091</b>

### Point ⑤ 税金等調整前四半期純利益

税金等調整前四半期純利益は、有機系素材や電子材料を中心に販売数量が大きく回復したことや、販売価格の是正が進んだことから、株式市況の下落による投資有価証券評価損を特別損失に計上しましたが、前年同期に比べ63億80百万円(136.3%)増加し、110億59百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (2010.4.1~2010.9.30)	前第2四半期 連結累計期間 (2009.4.1~2009.9.30)
<b>④ 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>11,141</b>	<b>19,675</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,161	△ 19,046
財務活動によるキャッシュ・フロー	488	△ 2,644
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 9	△ 14
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,540	△ 2,029
現金及び現金同等物の期首残高	6,815	6,077
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,275	4,048

### Point ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、業績の回復はありましたが、運転資金の増加や前年同期にあった法人税等の還付がなくなったことなどにより、前年同期に比べて85億34百万円減少し、111億41百万円の収入となりました。

## 会社概要 (2010年9月30日現在)

設立 1915年(大正4年)5月1日

資本金 369億9,843万6,962円

従業員数 連結4,835名 単体2,782名

事業所 本社  
〒103-8338 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号  
日本橋三井タワー  
TEL:03-5290-5055

支店  
大阪、名古屋、福岡、新潟、北陸(富山市)、札幌、東北(仙台市)

国内営業所  
長野、群馬、広島、四国(高松市)、秋田

海外営業所  
台湾(台北市)

工場  
青海(新潟県糸魚川市)、大牟田、千葉(千葉県市原市)、渋川、大船(神奈川県鎌倉市)、伊勢崎

研究所  
中央研究所(東京都町田市)  
電子材料総合研究所(群馬県渋川市)  
高分子材料総合研究所(千葉県市原市)

海外現地法人  
ニューヨーク、デュッセルドルフ、シンガポール、上海、蘇州、香港、ソウル

## 役員一覧 (2010年9月30日現在)

### 取締役および監査役ならびに執行役員

代表取締役社長 兼 社長執行役員 …… 川端 世輝

代表取締役 兼 専務執行役員 …… 前田 哲郎

代表取締役 兼 常務執行役員 …… 吉高 紳介

取締役 兼 常務執行役員 …… 星 守

取締役 兼 常務執行役員 …… 佐久間 信吉

取締役 兼 常務執行役員 …… 渡辺 均

取締役 兼 常務執行役員 …… 小野 健一

取締役 兼 常務執行役員 …… 植松 大 一郎

取締役(社外) …… 田中 紘三

取締役(社外) …… 堀 越 董

上席執行役員 …… 大石 秀夫

上席執行役員 …… 青柳 龍弘

上席執行役員 …… 綾部 光 邦

上席執行役員 …… 藤井 正 太郎

上席執行役員 …… 杵山 信二

執行役員 …… 玉木 昭平

執行役員 …… 宇田川 秀行

執行役員 …… 清水 紀弘

執行役員 …… 山本 学

執行役員 …… 狩野 利春

執行役員 …… 小山 一幸

執行役員 …… 奥田 章彦

執行役員 …… 松下 三 四郎

常勤監査役 …… 遠竹 行紀

常勤監査役(社外) …… 田中 隆康

監査役 …… 土亀 憲一

監査役(社外) …… 多田 敏明

## 株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数 …… 1,584,070,000株

発行済株式総数 …… 505,818,645株

株主数 …… 44,229名

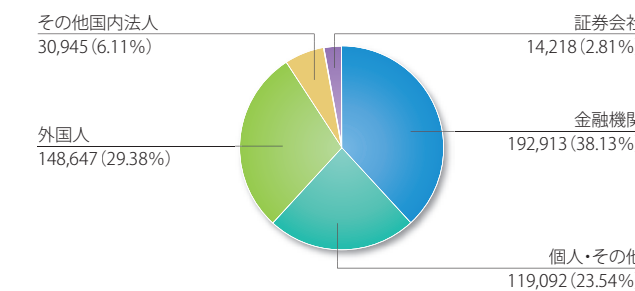
### 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	35,141	6.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	34,082	6.73
全国共済農業協同組合連合会	15,965	3.15
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	15,275	3.01
電気化学工業株式会社	14,753	2.91
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ビー リミテッド	13,638	2.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	13,373	2.64
三井生命保険株式会社	11,908	2.35
ジェーピー モルガン チェース バンク 385078	7,560	1.49
野村信託銀行株式会社(信託口)	7,280	1.43
三井住友海上火災保険株式会社	6,916	1.36

**当期(2011年3月期)の「中間配当金」のお支払いについて**  
配当金計算書または配当金領収書にてご案内のとおり、  
**当期の中間配当金は、1株につき5円とさせていただきます。**

**最新の企業・IR情報について**  
当社ホームページにおいて最新の企業情報やIR情報をご確認いただけます。ぜひご利用ください。

### 株式所有者別分布状況 (単位:千株)



### 株式所有数別分布状況 (単位:名)

